

令和4年度 第1回清瀬市男女平等推進委員会 議事録

日時：令和4年7月28日（月） 午前10時～正午

※当日9時30分より新委員6名に向けて説明会を実施

会場：男女共同参画センター 会議室1・2 およびZOOM

出席者：橋本委員長 近藤副委員長 佐藤（眞）委員 松村委員 佐藤（良）委員
原田委員 鈴木委員

ZOOM参加者：松本委員 山口委員 田村委員

欠席者：内野委員 長沼委員

事務局：企画部男女共同参画センター

◎⇒委員からの発言

■議題

1 正・副委員長選出

→ 橋本委員長 一同異議なし

副委員長選出

→ 近藤副委員長 一同異議なし

2 自己紹介

事務局 今年度より委員の入れ替えがあったため、自己紹介をお願いしたい。

（各自自己紹介）

3 令和4年度の調査結果説明

事務局 男女平等推進プラン進捗状況調査（以下、「調査」と略）について、結果の報告をする。

【令和3年度（令和2年度事業への委員評価）との相違点】

◆昨年からの変更点

・自己評価基準の変更（委員と各課の評価基準を同一化）

「A」はとくに新しい取り組みをしたときだけに付けるものとした

昨年同様、計画通り取り組んだ場合はBとした

- ・委員評価を担当課へ通知し、年度内に担当課がコメントを提出する予定
- ・6月6日 職員向け男女平等推進プラン説明会の実施

上記に加え、男女平等推進プラン（以下「プラン」と略）の事業内容を読むこと、担当者でなく課の意見として提出することを徹底した。

【調査実施期間】

令和4年5月26日～6月15日

◆委員からの質問

◎委員評価については、文字でルール化しておいてほしい。

事務局 委員評価基準については、資料にてお配りする。

◎令和3年度の調査は、「各課の返答・今後に向けて」で終了なのか。返答がプランに沿っていないものだった場合はどうするのか。この結果は一般公開されるのか？

事務局 コメントの返答の箇所まで清瀬市ホームページには掲載予定である。
昨年度以前は、委員評価を受けて調査は終わっていたが、男女平等推進本部に令和3年度の委員評価の報告をしたところ、「委員評価についての各課からの回答を返すべきではないか」という意見があり、このような形となった。また、各課の「コメントへの返答・今後に向けて」がプランに沿っていない内容だったらどうか、ということだが、それも含めてこの委員会で議論いただけたらと思う。

◎調査を実施することで、事業の担当課から回答があって、その課に「当事者意識」をもってもらっていて、男女平等推進がもっと身近になってくる。回答が明らかにプランに沿っていないと思われるところは、コミュニケーションが必要なのではないかと思うが、どうか？

事務局 このあとに今年度の委員評価の方法をどうするか議論いただく時間があるので、そこで話し合いいただきたい。

◎この委員会はプランの調査結果を評価する、という認識がある。各課がプランに則って事業を実施しているか、評価をどうしていくか、など気になる。

4 今年度の評価方法について

委員長 これまでは委員全員で分担し、調査結果の全部を評価していた。質問があれば担当課に聞いて、それをもとに評価するということをしていた。評価を行なう期間は長い。少し事業を絞った方がいいのではないか、という意見もあり、そこを今日は決めていきたい。今年度の評価方法についてだが、3案考えられる

案1) 令和3年度評価で担当課の評価より委員評価が低い項目に注目する

案2) 令和3年度評価で委員評価が低い項目に注目する

案3) 全ての事業の評価を実施する

案1は委員評価が低いものに絞り、各課の自己評価と委員評価が違うものに着目することになる。ただし、委員評価が良いものが抜け落ちる可能性はある。

案2は委員評価がC・Dなど低いものに着目するので、同じく委員評価が良い項目が落ちる可能性がある

案3はすべての事業を評価する。推進プランを見直していかなければいけないので、分担して全体をみていくということが可能である。

委員長 案1・2はいくつか評価が抜け落ちるが、評価しなかった事業は総論や報告書には含めないということになるのか？

事務局 自己評価のみになる可能性はある。

◆委員からの意見・質問

◎昨年は、委員評価が全体に及んだので大変だったが、良かった点もある。個別の評価をつけると、各課に考えてもらうきっかけにはなる。担当者レベルで「こう見られている」という意識を持ってもらえる。その点は良かったのだが、評価するのが大変だった。

案1・2のように全部評価しないとすると、評価しない事業に対して、男女共同参画の意識を高めるといった効果が下がってくる。個別の事業に掘り下げてすべてコメント・評価をつけるということは、良いと思っている。

委員長 これまで、委員から、各課に直接、調査の回答について、聞きたいという意見があったが、不可能ではないか？

事務局 全ての課には聞けないかもしれないが、どれかの事業を抽出してヒアリングするという事は可能である。男女平等推進本部でも、そういったことを積極的にしていくべきことではないかという意見があった。

◎評価の仕方、ZOOM 参加の方意見はあるかを聞きたい。

◎事務局の説明から、年度内に各課からの返答をもらうということで、男女平等推進委員が評価する時間が短くなる。「理由」と「今後に向けて」の回答が今回はない。今年度は昨年度より各課からの情報量が少ない。また各課に聞き直すことが増える気がする。やりとりが必要なのであるが、期間が短い。

◎もし、案1・2のようにするならば、評価する項目が少なくなる。全体で絞った項目を評価するというのか。それとも分担して評価するのか。

事務局 分担して評価する。

◎評価方法では「案2」がいいと思うが、分担するとなると評価する項目が、かなり少なくなる。それと、D評価については各課もどうしようもないというか、実施できない理由もあるかもしれない。調査する項目を絞りつつ、ほかの全ての事業が見られればと思う。

◎この評価方法案のもととなるのは、令和3年度の調査結果か？

事務局 そうである。令和3年度の調査結果で、令和2年度の事業に対する評価である。評価していただくのは、令和3年度の事業である。

整理すると、案1・2は、令和3年度の委員評価で低いものを抽出するのか、を見ていただく。D評価は14事業あった。

案3は、調査した事業全てを評価するかである。

委員会で全ての事業を評価することは大変なこととは存じ上げているが、プランの推進には有用だ。この委員会以外では、市の実行計画などあり、自己評価をするが、全部を外部評価しているわけではない。全部評価するというのは、

この男女平等推進委員会の特徴的な部分だ。ただし、大変だと思うので、その部分の負担も踏まえて検討していただきたい。

委員長 これまでどおり全部を評価した方がいいと思うか。

◎深堀すればするほど時間が無い。すべてを評価するのはかなり難しい。案2で最終的には全体という方がよい。

◎案2がいいと思う。各課が、プランについて誤解している部分を見つけてもらったり、建設的な意見がでてきたりして、各部署なりにモチベーションをアップしてもらいたい。ただ、案2は、一部の事業への評価が漏れてしまうところは気になる。

委員長 一部の事業への評価が抜けてしまうところは、そのとおりである。

事務局 委員評価でD評価を受けた課には偏りがある。令和2年度の委員評価は、施策ごとに評価をしていた。評価の仕方を考えてもいい。
たとえば、説明も時間いっぱいではなく、別の日程でヒアリングしてということもできる。長期総合計画の場合は、委員会で4グループ位に分かれて同時にヒアリングをしている。うまく時間を活用することはできる。

委員長 全体を評価し、ヒアリングが可能であればヒアリングをするというのはどうか。

事務局 まず全体をみて委員評価Dの項目についてはヒアリングするということでしょうか。D評価は、今年の委員評価を基本にしてやるのか。

委員長 その方が良いと思う。

◎Dは「実施していない」という委員評価なので、それよりは委員評価Cが重要な気がしている。実施できないのは何らかの理由があるわけなので、改善に向けて意見するというのは難しい気がする。

◎かなり自己評価と委員評価に差がある項目を評価するということか。差が二段階くらいあるものが良いと思う。

◎さきほど説明していたなかに、各部署からの返答・コメントがあるということなので、そちらも参照して評価してほしい。

事務局 全員にメールで送付するので、そちらをご覧ください。

委員長 CとDを選択的に選んで評価すると、どのくらい項目があるのか。

事務局 令和3年度のCは41か所、Dは14か所である。

◎プランの事業内容は毎年変わるのか。

事務局 10年間変わらない。あくまでも「計画」なので、具体的な事業は書いていない。講座を行なうとか研究するとか、時代によって変わってくると思う。おおよその方向性は変わらない。

◎すべての項目を見て評価するというのがいいと思う。

委員長 全体を評価するというだけでよいか。

◎全部を委員評価してヒアリングはたとえば、C・D評価を受けている一部の部署ということであるか。

委員長 これまでも委員から、もっと各課にヒアリングをしたいという意見が多かった。

◎はじめて委員を務めるので、事業について知るという意味で、委員評価A・Bも落とせないと思っている。Dはそもそも事業に取り組んでいない状況なので、判断しづらい。ある程度は丁寧に評価した方がいいと思う。

◎大変ではあるが、全部の事業を評価するのが良いのかもしれない。

◎昨年度の評価の大変さがわからないが、全部の事業を評価するのがいいと思う。計画が策定されてから5年にあたる来年に、プランの見直しを控えているということも踏まえるとなおさらだ。

◎全体が見えないが、委員会の評価の認識と主管課の認識と一致させていきたい。各課の回答が、事業目的が合っているのかという点では、評価して、各課の見直しに繋がっているのかなと気になった。各課の回答で、「チラシを置いた、無くなって補充した」というコメントを見たが、ちょっとプランの意図している方向と違うと思っ

た。チラシを持った人が次のアクションを起こすのが大事であってチラシの設置が目的ではない。

◎A・B という評価でも、よりプランを推進していくという目的から、「こうしてほしい」ということもあるかもしれないので、全部に委員評価を付けた方がいいと思っている。

委員長 そうすると、全体を評価していくということでよいか。負担が増えるが。
(一同賛成)

◆結論

全体評価をし、回答内容によっては担当課にヒアリングをすることも考える。

5 委員評価の分担決め

委員長 それでは、事業を評価する分担を決めていきたい。

事務局 昨年は、1 委員につき2つ事業をもっていただくということで進めた。
委員長・副委員長は全体を見るという役割を担っていただいている。この案でいくならば、ご自身で2つ担当を決めていただきたい。
(分担決めを決定)

◆そのほか

◎この委員会でLGBTの当事者の意見を聞いたことはあるのか。深く掘り下げてほしい。

事務局 LGBT 関連で言えば、プランの2-3-1 多様な性の在り方への人権配慮 で記述されている。それ以外の事業評価でもLGBTのことを配慮すべき、という意見もあった。

◎他の事業も LGBT に関係があると思っている。配慮いただきたい。

- ・総務課のプロポーザル方式の際の評価など、推進委員会の評価で改善されたこともある。
- ・事業内容を熟読するように各課には指示している。
- ・この結果はホームページに公開する。必ず課の代表として回答をするようにしてもらっている。

6 事務局よりスケジュールの説明

来年度の事業の改善に役立てるため、評価報告を早める。

◆次回の日程

次回の日程は、10月13日の木曜日にする。

以上